

本学における「教職実践演習(理科)」の概要と課題

菅野 治 恵

要 旨

平成28年9月に本学の学生は「城西大学教職課程 履修カルテ」を提出した。この段階で、すでに多くの学生が教育実習を経験し、「教育実習を通して学んだこと」(別添)を記入すると共に個別面談で教育実習の成果や課題を報告している。学生は「履修カルテ」に、教科や教職科目の履修状況と「必要な資質能力についての<自己評価シート>(1)～(6)」と「(総合的考察)－教職実践演習開始前」も記入している。そこで、36名の<自己評価シート>(1)～(6)と「(総合的考察)－教職実践演習開始前」について、学んだこと・課題を確認し、自己評価は平均値を求め履修の状況や傾向を見た。合わせて教育実習後の面談での課題の解決を目指し、28年度4回の教職実践演習(教科「理科」)を計画した。教職実践演習は模擬授業を中心に行うと共に、各回において「私の教材研究」等のテーマを決め学生の考えを報告し合い、それぞれの学生の経験から得たものを共有した。

教職実践演習実施後、学生は<総合評価>教職実践演習を受けて(学生記載)を記入し、「履修カルテ」の<自己評価シート>(5)～(6)については再度自己評価を行い、学んだこと・課題を確認し、平成29年1月「履修カルテ」を再提出した。そこで再提出の「履修カルテ」を基に成果と課題を確認し、それぞれの学生の資質能力の向上を目指し、1月～2月に全員の個別面談を実施した。以下は教職実践演習の概要である。

キーワード：教職実践演習，履修カルテ，自己評価，模擬授業

1. はじめに

平成28年12月中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」に続き、平成29年3月に新小学校学習指導要領、新中学校学習指導要領が告示された。その前文に「これからの学校には、教育基本法第1条に定める目的のもと第2条の目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会

的变化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となることができるようにすることが求められている。」とある。

学びの専門家として学校教育を担う教員の養成、キャリアステージに応じた研修等による資質能力の向上は、我が国の最重要課題である。

平成20年11月教育職員免許法施行規則が改正され、教職課程を履修する学生に対して「教職実践演習」が新設・必修化された。「教職実践演習」は、教育職員免許法施行規則第6条に「教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教

員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする」とある。これらを踏まえ、平成25年度より本学では「教職実践演習」を行っており、筆者は教科「理科」を4年間担当してきた。ここでは平成28年度の理学部化学科・薬学部の教職実践演習の受講者、36名における「教職実践演習」についての概要及び成果を報告するとともに、今後の課題について考察する。

2. 実践内容

2-1 「城西大学教職課程履修カルテ」について

本学の「履修カルテ」の内容

- ・ 個票

教職課程を履修する理由として（履修カルテには文章での表記であるが内容を要約すると）よい先生との出会い(14) 理科の楽しさを伝えたい(5) 教えることが楽しい(4) 子どもが好き・学校が好き(4) 小学校の頃からの夢(3) 「教え方」に関する同級生の賞賛のこぼれ(3) 等のように、よい先生との出会いや教科の楽しさ、教えることの楽しさ等の経験や子どもが好きという人間性が履修の理由になっている。(学生数)

- ・ 関連科目の履修状況
- ・ 教職関連科目履修状況
- ・ 教科に関する科目の履修状況

- ・ 履修カルテ <自己評価シート> (1) ~ (6)

- ・ 必要な資質能力についての自己評価（総合的考察）－教職実践演習開始前

- ・ 履修カルテ<総合評価>教職実践演習を受けて（学生記載）である。

平成28年9月提出時

履修カルテ<自己評価シート> (1) ~ (6) に示されている (1) ~ (7) の必要な資質能力についての自己評価の平均は下記のとおりである。(自己評価は、1, 2, 3, 4, 5の5段階)

(1) ~ (7) の必要な資質能力についての自己評価の平均を見ると

(4) 「コミュニケーション」は自己評価の平均が4.15である。「コミュニケーション」は、「発達段階に対応したコミュニケーション」「共感的理解」「公平・受容的態度」「社会人としての基本」の4項目からなり、その中の「共感的理解」(生徒の声に耳を傾け共感的態度で接することができる。)の自己評価の平均は、4.31と高く、多くの学生が、介護等体験実習や教育実習で生徒等とのコミュニケーションが良好であったと考えていることがわかる。

(7) 「課題探究」は、自己評価の平均が4.07である。「課題探究」は「課題認識と探究心」「教育時事問題」の2項目からなるが、「課題認識と探究

必要な資質能力についての自己評価	平均
(1)必要な資質能力についての自己評価「学校教育についての理解」	3.82
(2)必要な資質能力についての自己評価「生徒についての理解」	3.86
(3)必要な資質能力についての自己理解「他者との協力」	3.95
(4)必要な資質能力についての自己評価「コミュニケーション」	4.15
(5)必要な資質能力についての自己評価「教科・教育課程に関する基礎知識・技能」	3.64
(6)必要な資質能力についての自己評価「教育実践」	3.56
(7)必要な資質能力についての自己評価「課題探究」	4.07

心」(自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持っていますか。)については自己評価の平均が、4.44と高く、20名の学生が自己評価5 = とてもよくあてはまると回答している。「教育時事」は自己評価の平均が3.69と課題であり、第4回の教職実践演習で指導することにした。

(5)「教科・教育課程に関する基礎知識・技能」は、自己評価の平均が3.64である。「教科・教育課程に関する基礎知識・技能」は7項目からなるが、「教科書・学習指導要領」についての自己評

価が低いことから第1回で指導した。

(6)「教育実践」は、自己評価の平均が3.56と他の項目に比べ低いことを示した。「教育実践」は6項目からなるが、「授業構想力」については、第3回で取り上げた。そして「教育実践」は1～4回の模擬授業の実践や参観を通して学生が学べるよう、学生は資料を作成し模擬授業を行い実施後は振り返りを行った。

以下<自己評価シート>(1)～(6)の項目内容と自己評価である。

城西大学教職課程 履修カルテ〈自己評価シート〉(1)

(1) 必要な資質能力についての自己評価(学校教育についての理解)

項目	指標	主として対応する科目	自己評価
教職の意義	教職の意義や教員の役割、職務内容、生徒に対する責務を理解している。	教職論	3.92
教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得している。	教育原理 教育史	3.80
学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している。	教育制度	3.75

城西大学教職課程 履修カルテ〈自己評価シート〉(2)

(2) 必要な資質能力についての自己評価 (生徒についての理解)

項目	指標	主として 対応する科目	自己評価
心理・発達論的な子ども理解	生徒理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得している。	教育心理学 介護等体験実習	4.14
学習集団の形成	学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得している。	生徒指導	3.50
学習意欲を高める教育方法	生徒の学習意欲を高める様々な授業形態(または教育方法)についての知識を習得している。	教育心理学 教育方法	3.86
子どもの状況に応じた対応	いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解している。	教育心理学 生徒指導 教育相談 介護等体験実習	3.94

(3) 必要な資質能力についての自己評価 (他者との協力)

項目	指標	主として 対応する科目	自己評価
他者意見の受容	他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。	教育相談	4.08
保護者・地域との連携協力	保護者や地域との連携・協力の重要性を理解している。	教育相談	3.89
共同授業実施	他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。	教育実習	3.81
他者との連携・協力	集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。	教育相談 教育実習	4.19
役割遂行	集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる。	学内外の 諸活動	3.78

城西大学教職課程 履修カルテ〈自己評価シート〉(3)

(4) 必要な資質能力についての自己評価 (コミュニケーション)

項目	指標	主として 対応する科目	自己評価
発達段階に対応した コミュニケーション	生徒たちの発達段階を考慮して、適切に接することができる。	介護等体験実習 教育実習	4.03
共感的態度	生徒の声に耳を傾け、共感的態度で接することができる。	介護等体験実習 教育実習	4.31
公平・受容的態度	生徒の一人一人の個性を尊重し、公平で受容的な態度で接することができる。	介護等体験実習 教育実習	4.14
社会人としての基本	挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についている。	教育実習 介護等体験実習 学内外の諸活動	4.14

城西大学教職課程 履修カルテ〈自己評価シート〉(4)

(5) 必要な資質能力についての自己評価 (教科・教育課程に関する基礎知識・技能)

項目	指標	主として 対応する科目	自己評価
理科	これまで履修した理科教育分野の科目の内容について理解している。	教科に関する 科目	3.92
教科書・学習指導要領	教科書や中学校／高校学習指導要領（理科編）の内容を理解している。	教科教育法 教材研究	3.58
教育課程の編成に関する基礎 理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得している。	教科教育法 教育課程論	3.56
道徳教育・特別活動	道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得している。	道徳教育論 特別活動論	3.58
総合的な学習の時間	「総合的な学習の時間」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得している。	教育課程論	3.56
情報機器の活用	情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得している。	情報機器の操作 に関する科目 教育方法	3.67
学習指導法	学習指導法に係る基礎理論・知識を習得している。	教科教育法 教育方法 教育実習	3.61

城西大学教職課程 履修カルテ〈自己評価シート〉(5)

(6) 必要な資質能力についての自己評価 (教育実践)

項目	指標	主として 対応する科目	自己評価
教材分析能力	教材を分析することができる。	教材研究	3.94
授業構想力	教材研究を生かした理科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができる。	教科教育法 教育実習	3.44
教材開発力	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することができる。	教材研究	3.58
授業展開力	生徒の反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。	教育実習	3.78
表現技術	板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けている。	教育実習	3.69
学級経営力	学級経営案を作成することができる。	教育実習	2.92

城西大学教職課程 履修カルテ〈自己評価シート〉(6)

(7) 必要な資質能力についての自己評価 (課題探究)

項目	指標	主として 対応する科目	自己評価
課題認識と探究心	自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持っていますか。	全科目	4.44
教育時事問題	学校教育における新たな課題や、教育制度・法律の改正に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができますか。	全科目	3.69

(8) (総合的考察)

一 教職実践演習開始前 (学生記載)

学生はそれぞれの課題を解決し資質能力を向上させること。そして目指す授業ができるように、①たくさんの人の話を聴く、②教材研究を行う、③生徒理解を深める、④発問を工夫する、⑤板書の仕方、指名の仕方を工夫する等自分を磨くために教職実践演習に臨むことの意欲や意気込みが記

入されていた。その例として2名の学生の記載内容を以下に示した。それを受け、第1回の教職実践演習では記載内容と課題の解決、資質能力の向上を目指し、学生の意欲を大切に教職実践演習を行うことを伝えた。

<p>・教師には、専門的な知識、学び続ける力、広い教養、豊かな人間性が必要だと思えます。生徒一人ひとりのことを考え、分かり易い授業を行いたいです。教育実習を経て私は成長することができましたが、課題も多く見つかりました。専門的な知識、教育時事等をもっと勉強して必要な資質能力を高めていきたいです。(A・N)</p> <p>・変化の激しい時代に対応するために学校教育における新たな課題や教育制度、法律の改正等</p>	<p>を理解し、様々な教育の場面に活かせるように教育時事にも関心を持ち続けます。今回の教職実践演習において、グループ討議で様々な人の意見を受け入れ、学校現場に出た際の指導に活かせるように自分の意見をしっかり持ちたいと思えます。更に模擬授業や研究授業では、他の人の良い所は自分の授業に取り入れ、良くない所はしっかり指摘してお互いにより授業ができるように意見の交換をしていきたいです。(I・A)</p>
--	---

2-2 平成28年度 教職実践演習の内容

回	教職実践演習の内容
1	<p>1 はじめに 教職実践演習の趣旨等</p> <p>2 教職課程を履修した理由 36名の教職履修の理由等について</p> <p>3 免許状 免許状の種類 有効期間の満了の日 免許講習等</p> <p>4 「履修カルテ」より 必要な資質能力についての自己評価の概要・課題等</p> <p>5 模擬授業と研究授業 資料を作成し全員が模擬授業を行う。他の学生は授業について評価しコメントする。模擬授業後の振り返り。</p> <p>6 学習指導要領について 新学習指導要領全面实施について 中央教育審議会の審議のまとめ</p> <p>7 「私の教材研究」について 「教材研究」についてまとめる。第2回の教職実践演習時に発表する。(3-3-3 資料A「私の教材研究」参照)</p> <p>8 連絡事項</p>
2	<p>1 はじめに</p> <p>2 「私の教材研究」 各学生の「私の教材研究」について知り、経験を共有する。</p> <p>3 生徒が生き生きと学ぶ授業 (1) 生徒一人一人の理解 (2) 十分な教材研究 ①教材の内容を十分理解 ②生徒の反応を予測</p> <p>4 「履修カルテ」より (5)「教科・教育課程に関する基礎知識・技能」に関する指導 (6)「教育実践」について指導</p> <p>5 模擬授業 資料を作成し全員で模擬授業を行う。他の学生は授業について評価しコメントする。模擬授業後の振り返り。</p> <p>6 新学習指導要領 アクティブ・ラーニングの視点での授業改善</p> <p>7 「分かる授業」のための工夫・改善とは 左記のテーマについて考えをまとめる。 (3-3-3 資料B「分かる授業」のための工夫・改善 参照)</p> <p>8 連絡事項</p>

3	<p>1 はじめに</p> <p>2 「分かる授業」のための工夫・改善 各学生の「分かる授業」のための工夫・改善を知り，共有する。</p> <p>3 「よい授業」を展開するために ①授業の組み立て ②学習意欲を喚起する手立て ③指導技術の練磨 ④良い点を認め生かす指導</p> <p>4 模擬授業</p> <p>5 「理科の教員に求められる資質能力」とは 左記のテーマについて考えをまとめる。 (3-3-3 資料C 「理科の教員に求められる資質能力」とは 参照)</p> <p>6 連絡事項</p>
4	<p>1 はじめに</p> <p>2 「理科の教員に求められる資質・能力」について 各学生の考えを知り，目標と努力事項を明確にする。</p> <p>3 「理科」指導の重点 中学校 高等学校の「理科」について 埼玉県教育委員会 「指導の重点・努力点」等</p> <p>4 模擬授業</p> <p>5 「信頼される教師」であるために 左記のテーマについて考えをまとめる。 (3-3-3 資料D 「信頼される教師」であるために 参照)</p> <p>6 情報の収集と資料の活用 (1) 教育情報を収集し，教育の動向について正しく理解しておくこと 中央教育審議会答申 「……教員の資質能力の向上について」 「チームとしての学校のあり方と……」 「……効果的な教育システムの構築……」 「……高大接続の実現に向けた高等学校教育，大学教育……」 教育課程企画特別部会「論点整理」</p> <p>7 連絡事項</p>

2-3 模擬授業等について

善の視点を明確にする。(後添資料1-4)

2-3-1 模擬授業の進め方

模擬授業では、「教職実践演習」(後添資料1-3)を作成し「本時の目標」「板書」「主な発問」等を工夫し全員が模擬授業を行い，他の学生から授業について感想，よかった点，改善点の意見をもらう。それを基に「授業を終えて」を記入し提出させた。

「模擬授業について」に模擬授業について参観者は授業に関する意見等をメモする。(後添資料1-2)

付箋に記入された参観者からの模擬授業に関する意見を基に授業者は振り返りを行い，授業の改

2-3-2 模擬授業を終えて

模擬授業後の学びをまとめ，個人面談時に配布し，学生の学びと共に成果を共有した。

・他の人の授業を見学すると色々なことが分かる。自分の授業の改善点は，テンポが悪いこと。発問や授業の組み立て，板書の仕方やタイミング等，人それぞれだと思った。自分に合うものは真似して，自分のオリジナルの授業ができるようにしたいと思う。たくさんのが吸収できた。(I・K)

・教育実習後，しばらく間が空いての授業になったが，実習前よりも自分自身が，楽しみながら授業ができたように感じた。また実習を経て

自分の気づかないところで自信がついたように感じる事ができた。しかし、状況に応じての対応等まだまだ足りないと思った。(O・S)

- ・時間配分が合わない。黒板の大きさに合わせた書き方ができない。説明の方法や授業の流れ等も。回数をやり続けることが重要なのだと思った。質問の方法も工夫をして変えたい。模擬授業では、やりたいことを詰め過ぎた気がする。もっとコンパクトにまとめたい。(S・T)
- ・それぞれ生徒に分かり易い授業展開でした。その中で視覚に訴える方法として図やパワーポイント、黒板に貼れるような模型を使っていたのが、印象的でした。生徒に分かり易く、また理解しやすくする為には、視覚的に捉えさせることが効果的であると思いました。(N・Y)
- ・久しぶりの授業で緊張しました。本当は、アリストテレスの話とか歴史的背景も伝えながらと考えていましたが、できませんでした。緊張もあり、下調べとか本当にきちんと行わないとできないけれど、人の前に立って何かを伝えるのは楽しいなと改めて感じました。(I・S) 等。

2-3-3 各テーマに関する記述

第1回～第4回の各テーマに関する学生の記述内容は下記である。

資料A 第1回 教職実践演習 テーマ
「私の教材研究」について

- ・教科書を読み、生徒がどう考えるか考えながら、生徒が間違えそうなところをチェックする。参考書を読み、授業を進める際のポイントをつかむ。実験を行い、詳しく話すところやイメージがつかめるようにする。他の表現方法、内容をインターネットや本で調べ、おもしろそうなものを取り入れる。(K・M)
- ・生徒の反応を考えて発問を考えるか。同じ指導過程でも日によって変わるので、何度も何度も

も教材研究する。分からないこと、理解が足りない部分はよく調べ理解を深める。(I・N)

- ・一つ一つポイントを整理し指導案を組み立てる。教科書で足りない時は、参考書を3～5冊ほど持ち出し比較して資料をつくり配布した。生徒が疑問に感じることを中心に教材研究した。(S・R)
- ・教える部分だけでなく、その単元の全体を歴史的背景も踏まえ深く理解する。「理科を教える」ではなく、「理科で教える」を意識するようにする。(I・S) 等

資料B 第2回 教職実践演習 テーマ
「分かる授業」のための工夫・改善

- ・生徒の疑問を深めて実験により確認することで理解が深まる。身近な例や実物を使うとイメージしやすい。(I・A)
- ・生徒が疑問に思うことを考えながら、授業を組み立てる。(O・R)
- ・生徒が既に持っている知識・経験をいかに授業内に入れて、新しい知識と結びつけられるか。結びつけば、生徒は理解し易くなる。(S・T)
- ・生徒の反応が悪い時は、教師の発問が悪い。問い方を変えて生徒の答えで授業を進めることが大事だと思った。(T・Y)
- ・目標を明確にする。生徒を参加させる。生徒に考えさせる。(I・K)
- ・ただ教科書を読み板書するだけで、理解できる生徒は少ない。色々な教材を用いて理解させる。例えば生体を構成するタンパク質では、「ニュートン」という雑誌を用いた。(T・M) 等

資料C 第3回 教職実践演習 テーマ
「理科の教員に求められる資質能力」とは

- ・生徒の言葉をよく聞き、顔をよく見て、何が

求められているのか、どのようなことを思っているのか分かってあげようと努力する姿勢。知識が豊富であること。生徒と一緒に学ぼうとする姿勢。生徒を理解すること。生徒の発言に柔軟に対応できること。(K・M)

・研修の精神。突き詰めるという意味では研究と同じ。(T・Y)

・実験など危険なこともあるので、周りを見渡せる注意力。生徒が自分から疑問をもってくれるような授業をする力。(H・S)

・理科の知識を持っていて、そのことを生徒のもっている小学校や日常の知識と合わせて話を組み立て展開できる力。(S・T) 等

・ICT機器を利用し、視覚的・聴覚的に感じさせる。アクティブラーニングの視点での授業が行えること。社会や地域と絡めることにより興味を持たせること。(M・T) 等

(N・Y)

・生徒の話をよく聞く。生徒と同じ目線に立つ。生徒としっかり目を合わせて笑顔で挨拶する。「ありがとう。」「ごめんなさい。」を素直に言える。生徒の手本となるよう行動できる。

(K・M)

2-4 「履修カルテ」にみる教職実践演習の効果

2-4-1 「教職実践演習」後の学生の自己評価

<自己評価シート> (5) と (6) における、平成28年9月と29年1月(受講前と受講後)の自己評価の変化を下記にまとめた。平均してみると、(5)が3.64→3.71, (6)が3.56→3.69と、その評価はどちらも上がっている。項目別にみても(表参照), (5)の総合的な学習の時間以外はすべてプラス評価であった。

(5) 必要な資質能力についての自己評価(教科・教育課程に関する基礎知識・技能)

項目	平成28年 9月	平成29年 1月
理科	3.92	4.03
教科書・学習指導要領	3.58	3.64
教育課程の構成に関する基礎理論・知識	3.56	3.58
道徳教育・特別活動	3.58	3.69
総合的な学習の時間	3.56	3.56
情報機器の活用	3.67	3.78
学習指導法	3.61	3.69

資料D 第4回 教職実践演習 テーマ 「信頼される教師であるために」

・授業は分かり易く、生徒指導もしっかりやる。学び続ける姿勢を忘れない教師。(A・N)

・授業の一つ一つを真剣に行い、生徒に対して嘘をいわない誠実な人間であること。(U・H)

・常に真面目に話すこと。悪いことをしっかり注意して、生徒から不公平感を抱かれない。(K・R)

・生徒に分かり易い授業をすること。分かりにくくても一生懸命伝える努力をすること。姿勢が伝われば生徒はついてくると教育実習からも学んだ。(S・R)

・努力していることは生徒にも伝わり信頼されると思う。授業, 部活, 保護者との関わり, 配布物等。生徒は全てみていると思う。(T・T)

・生徒が分からないことを、しっかり解消することによって信頼されるのではないだろうか。またどれだけ生徒の為に尽くせるかだと思う。

(6) 必要な資質能力についての自己評価 (教育実践)

項目	平成28年 9月	平成29年 1月
教材分析能力	3.94	4.00
授業構想力	3.44	3.58
教材開発力	3.58	3.75
授業展開力	3.78	3.94
表現技術	3.69	3.94
学級経営力	2.92	2.94

それらの評価を個別に見るために、受講後に評価が上がった (+評価)、変化なし、評価が下がった (-評価) に分け、その学生数を調べた (表及びグラフ)。(5) では7項目について自己評価が+になった学生は延べ29名、自己評価が-の学

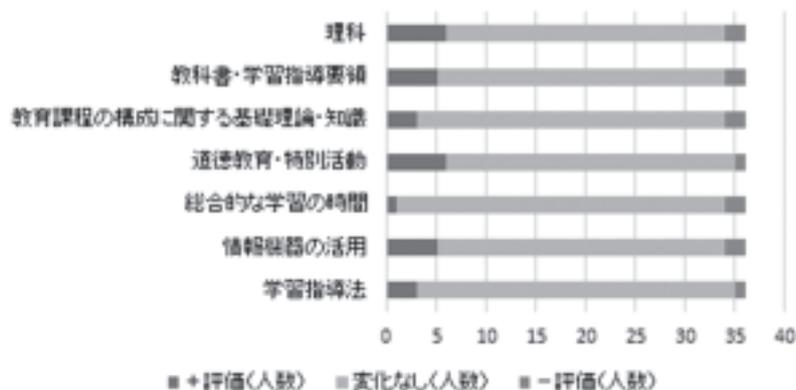
生は12名であった。(6) では6項目について自己評価が+の学生は延べ21名、-の学生は3名になった。特に表現技術「板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けている」は7名が+であり、模擬授業の実施や参観等により多くの学生が自信をつけたことが伺える。

自己評価の高くなった学生の実人数は15名、自己評価の低くなった学生の実人数は4名であった。自己評価が低くなった学生は、「学べば、学ぶほど、自分に足りないものが見えてくる。」「情報教育機器の活用等課題が見えた。」と記述している。自己評価が低くなった4名について個別面談を行い、今後の学び方について指導した。

(5) 必要な資質能力についての自己評価 (教科・教育課程に関する基礎知識・技能) の変化

項目	+評価(人数)	変化なし(人数)	-評価(人数)
理科	6	28	2
教科書・学習指導要領	5	29	2
教育課程の構成に関する基礎理論・知識	3	31	2
道徳教育・特別活動	6	29	1
総合的な学習の時間	1	33	2
情報機器の活用	5	29	2
学習指導法	3	32	1

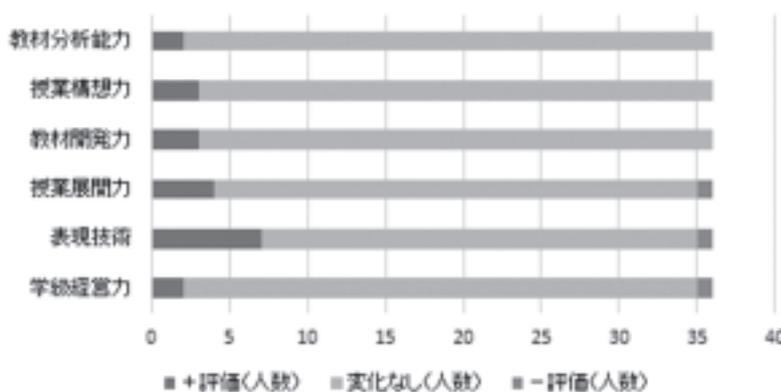
教科・教育課程に関する基礎知識・技能



(6) 必要な資質能力についての自己評価 (教育実践)

項目	+評価(人数)	変化なし(人数)	-評価(人数)
教材分析能力	2	34	0
授業構想力	3	33	0
教材開発力	3	33	0
授業展開力	4	31	1
表現技術	7	28	1
学級経営力	2	33	1

教育実践



2-4-2 総合評価に見る学生の学び

課題を持ち意欲的に取り組んだ教科(理科)の4回の教職実践演習の模擬授業や意見交換は充実したものであった。<総合評価>教職実践演習を受けて(学生記載)は下記である。

・教職実践演習では、たくさんの同級生の授業を見ることができました。プレゼンテーションソフトを用いて地学の授業でクイズを出したり、結合を表すために見た目を変化させたり、理科の授業での課題である座学でも生徒を引き付ける方法を学べて良かったです。発熱・吸熱反応をカイロや瞬間冷却パットを作成したという発表もあり身の回りのものを用いているため生徒が興味を示してよいと思いました。実験では生徒がけがをしないように注意点の確認のためにも予備実験が大切であることを改めて感じました。授業展開は流れるような授業がよいと思いました。教師がつかえてしまうと生徒が不

安になります。しっかりとした準備、元気のよさ、声のボリュームや緩急があると更に生徒を引き付けると学びました。(M・T)

・教職実践演習を受けて、教育実習に行く前と比べると格段に模擬授業がうまくなっているのが分かった。一人ひとりが自分の持ち味や教育実習で学んだことを活かして授業を行うことによって生徒を引き込む魅力的な授業を展開している。短い期間であったが、実習にひた向きに努力し前向きに教育実習に取り組んだ成果だと私は思う。現場の先生方から見ればまだまだ未熟な点も多く及第点もらえるかどうか分からないが、教育実習を通して得たもの、教職実践演習で得たものを大切に、更なる研鑽を積んでいけたらと思う。(N・Y)

・模擬授業では、同じように教育実習に行った同期が、どんな風に何を考え何を目標として授業を行ったか全員の模擬授業が見られ刺激にな

りました。自分に足りなかったことや実習で他の人は教わっていないこと、学べなかったことが、他の人との違いを通して感じられ改めて自分は実習を通して何を学び何を学ぶことができたのか考えるよい機会になりました。(I・S)・教職実践演習は良い刺激になった。みんなの模擬授業を見て実習前後の成長を感じた。誰のために授業を行うのか。何を学ばせるのか考えて試行錯誤を繰り返した授業の集大成を見て勉強になった。また自分の授業を見てもらい同年代の人に評価された経験は貴重なものとなった。生徒の意見を大切に生徒と創る授業を行いたいと考えていたのでみんなに伝わったことは嬉しかった。広い視野と深い知識は充実した授業を行う上で大切だと再確認できた。(T・Y)

上記以外の学生が学んだことについて記述内容を一言で要約すると①板書・発問等の表現技術②分かり易い授業を実践するための展開の工夫③教師の在り方④自分の模擬授業についてのアドバイス⑤良い授業を行うための授業計画⑥授業の組み立て⑦授業についての評価の方法と改善⑧授業時のプリントの活用⑨コミュニケーションの方法⑩時間配分や雰囲気づくり⑪教師の責任と決意⑫教師の一日とあるべき姿⑬自分の模擬授業の良いと

ころと改善点⑭準備の大切さ⑮教育実習でそれぞれが受けた指導の内容⑯生徒の実態を踏まえた授業の大切さ⑰指導案の書き方等実践的な体験⑱教師間の連携の仕方⑲教材・教具の工夫等である。また履修カルテを書いてこの4年間で学んだことの多さを実感し、今後もしっかり学び続けたいという時間になったと記述している。それぞれが教職実践演習を通して多くのことを学んでいることが分かる。

3 成果と課題

教職課程を履修している学生は「授業をどのように組み立てて行ったらよいのか」など、教育実習に対する不安は多い。そこで化学科ではそれらの不安を少しでも解消できるように3年次に「化学教育演習Ⅰ」を専門選択科目として開講している。筆者がこの科目を担当するようになってから、この講義で積極的に模擬授業や場面指導を取り入れ、指導してきた。その流れを受け継ぎ、学生は教育実習前に自主的に声を掛け合い模擬授業を行っている。回数は数回～10回程度で実施回数は本人が決めている。それぞれの模擬授業では相互に生徒役になり、授業の展開、発問、板書、教

平成28年度		平成29年度	
9月	「履修カルテ」提出	9月	「履修カルテ」提出
	↓		↓ 課題確認と改善策検討
11～12月	教職実践演習		※1 模擬授業評価表作成
	↓	11～12月	教職実践演習
1月	「履修カルテ」提出		↓ 教職実践演習模擬授業考察
	↓		※2 模擬授業評価表修正
2月	個人面談	1月	「履修カルテ」提出
			↓
		2月	4年生から3年生へ
			※3 「模擬授業について」発表
			↓
		2月	個人面談

※1 ※2 ※3は学生が教職課程センターで自主的に行う活動である。

材、教具について意見を交換している。互いに意見を述べ、授業者もそれを参考に授業を改善し再度模擬授業を行う。学生はそれぞれが準備をして教育実習に行くが、大学生を生徒としての模擬授業と実際の学校の違いに戸惑い、自分の教材研究不足や指導力不足を痛感している。

教育実習後全員に「教育実習を通して学んだこと」(別添)を基に個別面談を行うが、報告から学生が教えることの難しさ、遣り甲斐等、教職についてたくさんのことを学び、成長していることを実感する。教育実習はそれぞれの学生のかげえの無い時間と経験であり学生からの報告を聴く時間は極めて充実した時間で、筆者が指導について振り返り課題を確認する時間ともなる。

本学の学生は自己評価にも見られるように学ぶ意欲が高い。意欲を大切に資質能力を高め、信頼される教師を育成することが求められている。本学の学生は下級生との関係も極めて良好である。大学院の学生は、4年生と一緒に模擬授業に参加しアドバイスをする。4年生は3年生に教育実習の体験を話し模擬授業を行い、質問にも丁寧に答えてくれる。それが数年続いている。学生は「自分達も先輩からたくさんのことを教えていただいた。今度は自分たちの番だ。」とよく口にする。共に学ぶことは、上級生も下級生もそれぞれの資質を向上させることになる。

平成29年度は教職課程センターを利用し日常の中で生徒が模擬授業や研究協議、教材研究を行うことが可能であり、教職実践演習開始前も教職実践演習後も継続して学ぶことができる。そこで教職実践演習を上記のように改善したいと計画している。

教育は「ていねいさ」であるとかつて指導を受けた。「その一人」と向き合い最善を尽くすこと、常に生徒に声をかけ励ますこと、教師の遣り甲斐と喜び、教師は常に学ぶことを学生に伝えて

いる。

教師には、自己の使命の自覚と、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行が求められる。

教師もアクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の実現である。

学生は教師になりたいと思っている。「教育実習」「履修カルテ」「教職実践演習」で一人一人の学生について課題を確認し指導すると共に、何を身に付け、何ができるかようになったか、何ができるようになることが求められているか、学生と振り返り次の目標を設定している。

平成29年度「理科教育法」は毎時間ごとに、学生が自己評価を行い、筆者は自己評価から内容についての理解の様子や技能の習得について確認を行っている。

「教育実習」では、今までの取り組みに加え新たに教職課程センターを活用し、教育実習を経験した同学年の学生が、都道府県別に教育実習の成果や指導案の様式を、教育実習を控えた同学年の学生に伝達し、その後多くの学生で模擬授業について協議を行っている。事前に県の様式に基づく指導案が作成でき、模擬授業を行い教育実習に臨めるため、学生が充実した教育実習を行っている。

日々の取り組みを大切に、学生の資質能力の向上を目指し「理科教育法」「教育実習」「教職実践演習(理科)」を充実する。そして「履修カルテ」から見える課題を確認し、常に計画・実践・評価の見直しと改善を行い、求められる「信頼される教師」を養成していきたいと考えている。

